

4. 参加者アンケートの集計結果

アンケート集計結果

(回答数：167件)

Q1. 性別・年齢

	男性	女性	無回答	合計
10代	0名	6名	0名	6名
20代	12名	27名	0名	39名
30代	16名	15名	1名	32名
40代	17名	12名	0名	29名
50代	15名	9名	2名	26名
60代	14名	9名	3名	26名
70代	4名	2名	1名	7名
無回答	1名	1名	0名	2名
合計	79名	81名	7名	167名

職業

- | | |
|----------|--------------|
| ●会社員 37名 | ●その他 (教員 4名) |
| ●自営業 5名 | (団体職員 3名) |
| ●公務員 15名 | (看護師 1名) |
| ●学生 21名 | (フリーター 6名) |
| ●主婦 23名 | (無職 7名) |
| | ●無回答等 45名 |

Q2. 広報媒体

- | | |
|-------------------|---------------|
| ●新聞広告 (中日新聞) 111名 | ●イベントちらし 19名 |
| (朝日新聞) 4名 | ●親戚・知人等から 24名 |
| (毎日新聞) 1名 | ●ホームページ 5名 |
| (伊勢新聞) 2名 | |
| (日経新聞) 1名 | |

Q3. 参加動機・目的 (複数回答)

- | | | |
|------------------|------|----------|
| ●国際協力に興味があったから | 116名 | (69, 5%) |
| ●伊達公子さんに会いたかったから | 103名 | (61, 7%) |
| ●おもしろそうだったから | 41名 | (24, 6%) |

Q 4. イベントの感想（複数回答）

- おもしろかった 71名（42,5%）
- つまらなかった 1名（0,6%）
- 勉強になった 121名（72,5%）
- 難しかった 10名（6,0%）
- 分かりやすかった 45名（27,0%）

Q 5. 今後国際協力に関し、

- 積極的に取り組みたい 50名
- 機会があれば取り組みたい 107名
- あまり取り組みたくない 6名
- 無回答 4名

Q 6. 国際協力への取り組み

1. 来日する留学生との交流支援、
海外途上国に行ってボランティアとして技術指導をする
2. 身近な外国人との交流
3. 奉仕を通じた交流、交流を通じた青年活動
4. ホームステイ
5. 発展途上国の教育に関すること
6. 現在取り組んでいる事業にスポーツを取り入れ、スポーツを通じた共通の喜びを示したい。スポーツには、規則が有るが、支援は複雑すぎるため、一定の土俵の中で評価が大切です。
7. 地域住民が参加できる海外支援活動
8. 学校へ行けない子供に教育の場を
9. ボランティア
10. シニアボランティアなど
11. 助け合っていきたい
12. 世界の歴史を見つめたい
13. 途上国の末端の人々に教育や医療などの面で貢献できる何かをしたいと考えている。
14. 国際協力のボランティア
15. 通訳等（英語）
16. 私自身、海外で生活した経験があり、そのときに得たものを少しでも還元できたらと思う。
17. スポーツ
18. ODA民間モニター
19. 自分の仕事が多少でも海外協力になればよいと思う。
20. 文化支援・技能支援・教育
21. 途上国の教育に関わっていきたい。
22. 学校での教育活動
23. 留学生との会合に積極的に参加したい。
24. 青年海外協力隊
25. 地域に根付いた活動（ボランティア等）
26. JICA職員になりたい。
27. 定年後を有意義に過ごしたい（ボランティアとしてお役に立ちたい）
28. 地雷の除去作業、または井戸掘り作業に参加できないかと考えている。
29. NGO団体の活動に参加したい。

30. 海外へ行って日本語を教えたいし、日本に滞在する外国人の力になりたい。
31. 海外の技術の向上、その他に協力できればと考えている。
32. 広い視点を持って、自分にできることを考えてみたい。
33. ホームステイの受け入れ
34. シニア海外ボランティア
35. ホームステイの場を提供できたらと思います。
36. 森林環境問題。自分ができるところから始めたい。
37. 海外の発展途上国での支援活動に参加したいが、旅費がかかることと生かせる技術がないこと、小4の娘のことがカセになっている。
38. 語学（英語・日本語）、書道、テニス等を教えたい。
39. 国際問題に関心を持つ。子供に考えさせる。
40. 国際協力についてより多くの人に関心を持つようにしたい。自分ももっと知りたい。
41. 自分に何ができるのかももう一度見つめ直してみたいし、自分が長年がんばってきたことを生かす方法を見つけない。
42. 実際に身近なところですが、英語を子供に教えるというボランティアをする中で、途上国の実情も含めて少しでも子供達に伝えてきたいと思っています。
43. スポーツをしに海外へ行ってみたい。
44. カンボディア子供病院の維持の協力、自立援助。
45. 日本語や日本文化を伝え、相手の文化も様々な交流を通じて理解したいです。
46. スリランカ・ネパールに行き、まず現状を見てみたい。
47. 国際交流の会に参加しているが、交流と協力が少し違うかなと感じたが、自分ができるところからやっていきたい。
48. まず、関心を持つこと、そしてできることを維持すること
49. 新聞を読み、考えることから始めたい。できるところからしたい
50. 現在、1年のうち、3～6ヶ月外国へ行っているため、友人を多く作り、交流したい。
51. ワンデイボランティアのシニア版があったら。
52. 身近なところから取り組んでいきたい。
53. 家族での会話を実施します。
54. テニス歴が長いので、テニスを通し、子供達に何かできればと考えている。
55. 自分自身を生かした中で、ちょっとした協力ができることがあればしたい。
56. 教育分野での文化交流を行いたい。
57. 世界の国々の開発途上国の事を知り、家族とも話し合う。青年海外協力隊にも参加したい。

58. 伊達さんのようにいい流れを作れる人間になれるように努力したい。
59. 戦争に苦しむ子供達のケアをしたい。
60. 広報（職場～学校でも他の人に知らせたい。）
61. より知る。自分に関わる人に知らせる。自分自信の直接的な行動を模索する。
62. 独学で経営を勉強し、公害のでない道德経営を伝えたい。
63. ニュースを見るなど、まずは、いろいろな情報を見聞きして、興味のもてることを探したいです。
64. 物資の支援だけでは、得られない、心のふれあいをしたい。時間がゆるすのであれば、とりあえずは、実際にこういう活動をされている方がいることを語り伝えたい。
65. 国際協力を上段に構えず、自分自身が楽しみ、続けられることが真の協力なのか。
66. 海外ボランティア、スタディーツアーに参加すること、
67. 活動に参画することを考えている。
68. 自分から積極的に多文化・他人種にふれていきたい。そのためにそういう環境を見つけ、飛び込んでいきたい。そして、自分の好きなダンスを通して、国際協力に貢献したい。
69. このような会に参加したい。
70. まずは、家庭で話し合う。
71. 難しく考えず話し合いたい。
72. 水の使い方を節約する。一日10分海外・国内のニュースを見る。
73. 江南市と東京武蔵野のNGO団体の行ったワークキャンプでタイ東北部、フィリピン・ルソン島で建設系の仕事をしてきました。今後は、また別の国で別の環境でできたらと思います。（例えば植林活動や施設で）
74. 芸術的活動補助（職務経験及び、美術科専攻であったので経験を生かしたい。
75. いろいろな国について知ろうと思います。WIDについて何かできることを探したいと思う。
76. 現地にて体験したことを周りに与えたり、フェアトレード的な活動もできる。
77. JICAの活動に参加したい。（パンフレットにあった国際協力実体験プログラムをぜひ）
78. シニアボランティア、あるいは、NGO活動などライフワークとして自分に何ができるかを考えてみたい。
79. 海外での協力は、簡単な事ではないので、国内でもできることを見つけていきたい。
80. 子供が好きなので、世界中の子供たちが、家族と幸せに暮らし、平等に教育を受けられるような社会造りができるように貢献したい。

- 8 1. 自分の経済的な克服としかるべき生き方とが履行していないので、できることからしたい。
- 8 2. 世界の食糧問題に関われるようなことをしたい。
- 8 3. アフリカ大陸でボランティアまたは自分のスキルで役に立つ仕事があれば活躍したい。
- 8 4. テニスをやっているので、青年海外協力隊として世界にいきたい。
- 8 5. 仕事にボランティア活動があるので、料理・言葉などを教えたり、教わったりしたい。
- 8 6. 具体的にできることがまだ思い当たらないが、自分を磨いて、役に立つ能力を育てること。家族でもっと関心を持つことから始めたい。
- 8 7. 現地に行き、その国の文化や宗教のことを考えながら交流したい。
- 8 8. スポーツを通じて取り組みたい。
- 8 9. NGO・NPO、国にかかわらずボランティアまたはスタッフとして関わる。

Q 7. 意見・感想等

1. 他の国の文化をこわさないような国際協力が望ましいと思います。つつい日本の考え、欧米的な基準になってしまいがち。
2. 個性を大切にしたい。能力をのばす手助けをしたい。社会に恩返ししたい。
3. それぞれのパネリストのお話は、語ろうという雰囲気ではなかったように思います、質問に対しての応答で活気が出ました。自分自身勉強不足でした。受け身的でした。1人1人のパネリストは、すばらしい方々でした。
4. パンフレットでみると、手に職があるほうが（看護師や専門職）派遣されているのが多いのを知ると、何にも取り柄のない、例えば英会話ができない、今までの仕事では、国際協力にはつながらないなどで、どうしたら、何をしたら国際協力につながるのかが、はじめの一步には進めずで、ただ興味があるだけで終わってしまいます。それに自分は多少聴力が弱いので欠点があるとやはり不安です。聴力が弱いと言うだけでも、またはじめの一步が出ないのです。しかし、パネリストの話聞いて、貧しい国の人々の生きるすばらしさの体験談で何と自分はちっぽけな人間なんだと考えさせられます。今まで温々と耳が悪いという欠点で、逃げ腰でいる自分に恥ずかしさを感じました。
5. 国際化というと海外に目を向けがちですが、現在日本で生活なさっている外国人の方や、在日中国人・韓国人の方々の住民投票権をはじめとする環境を整えていただく必要もあると思います。JICAの方が、そういったことも視野にいれてらっしゃることがわかって、嬉しく思いました。しかし、まだまだだと思うので、名古屋がもっとオープンな町になってほしいと思っています
6. ボランティア、または、国際協力に何らかの形で役に立ちたいと思われている方は多いとおもいますが、どうやって、どこに（機関）言えば実現できるのか、まだまだ、不明な点があるので、もっと宣伝すべきだと思います。
7. 亀の井に研修センターがあるのは、知っていますが、何をしているのか知らないのもっとPRして下さい。
8. 伊達公子さんの生の声が聞けた事に感激しました。お話がとてもわかりやすく、特に自分の選んだ道を進むことに対して、伊達さんなりの考えを聞いて私もとても勇気づけられました。
9. とても参加してよかったです。多くの人にこのような気持ちを感じてほしいので、どんどんこれからも一般の人に伝わるようにしてほしいです。
10. こういう機会をこれからもどんどんやってほしい。
11. 日常、特に経済的に不自由はないと思うが、家と会社の往復のみで体験することだけでは、気持ちにも余裕がなくなっています。今回、体験談を聞き、まだまだ家族にたいしてもすべき事が多くあるように感じた。

- 1 2. 今、子供の夢のためにサポートしようとする、とてもお金がかかります。娘の「やりたい」を大切にしたいのですが、それが今の悩みです。伊達さんの夢を支えたご両親は立派だと思います。地雷の問題、エイズの問題、国という枠をとりはらって、世界中の人々が地球平和、地球環境改善のために考えることができるように願っています。
- 1 3. 国際協力という大きな「テーマ」からすると、もう少し時間をかけてほしかった。パネリストの中では、何ととっても伊達さんにつける。世界での実績は、他の追随を許さない。
- 1 4. 国際協力には、「文化的な面での協力」も大きなことであるということを知ることができました。
- 1 5. 講演を聞きに来て勉強になりました。まず、話を聞く参加をし、自分でできることがあれば参加、行動をしたいと思います。
- 1 6. 行動へ、はじめの一步を始めたい。
- 1 7. 国際協力と固く考えず、自分のできることを人を通じてやるのが、必要なのだと言うことがよく分かりました。また、機会があれば、参加させていただきたいと思います。
- 1 8. 今、自分に求められるのは、何よりも「実体験」だということ、「実体験」を大切にしていけることが、人生を豊かにすることが分かった。伊達さんに会えて良かったです。
- 1 9. テレビの伊達さんを見たいという不純な動機と国際協力とは、ほど遠い自分がこの会に参加しました。でも、お話によって、自分が頭の中で考えていたボランティアや協力というのが、具体的なビジョンとして整理されました。
- 2 0. ビデオに関して、自分は伊達さんのファンだけど、今日のテーマから考えると伊達さんにクローズアップしすぎた気がした。もう少し、現地隊員の様子や話が入っていると良かった。
- 2 1. 各方面のパネリストの方のお話が聞けて、体験楽しく新たな視野が開けた。
- 2 2. 関心を持つことのすばらしさを再認識しました。
- 2 3. いろいろな立場や経験を持つ個性的な方々のお話が伺えて楽しかったです。
- 2 4. 戦争が始まるか始まらないかと言われる今の世の中でこうして、心と心のふれあいや、夢や希望を与えることに力を注がれる人がいる。物資に恵まれて考えることなく生きることが、本当の幸せじゃない。飢えに耐えながらも本当に目を輝かせ生きる人たちの方が、幸せかもしれないと感じさせられました。今後もこのような機会があれば、参加したいです。そのときは、もう少し、座席配置を工夫し、もっともっとよいものになることを希望します。
- 2 5. 相手の欲する物資の援助のみでなく、あらゆる面での技術並びに心の援助がその地域の活性につながることを知らされました。

26. 話しがわかりやすく一層関心が持てた。国際協力活動とは一方的に与えるものではなく、介入者自身が与えられるものが多いことを確信しました。
27. 質問コーナーが短すぎて、会話のやりとりが限られていた。その点のみが残念。
28. 愛知万博に向けて国際理解教育は極めて重要だと思います。そのためにもこういう場を提供し、もっと多くの人々の目にとまるように工夫する必要があるでしょう。
29. 自身のこととして、素直に考えるよい機会になりました。
30. 国に行くってことは、無理だと思うけれど、家で家族と話そうことができれば、よいと思いました。
31. 貴重な意見が聞けてよかったです。また、機会があれば、出席したいし、JICAの活動について知りたい。
32. ボランティアに、年齢制限をもうけなくてもいいのではないかな。
33. 子供達の可能性を大切にしなければいけない。次世代のために。
34. 仕事があり、海外に行くことは無理です。そういう方は、多いと思いますがもっともっと身近で簡単に何か参加できる場があればと思います。ビデオの時間が長すぎると思います。(内容はおもしろかったけど、15～20分ぐらいに)
35. 現地にいくことができなくても、どういう形で国際協力をしていっていいか教えて欲しいです。
36. 質問ができなかったですが、ボランティアの職場への復帰の現状はいかがでしょうか。身近にそんな方がいらっしやらないので。
37. 伊達公子さんのキッズテニスに対する熱い情熱を感じ、素敵なお方だと感じた。
38. 貧しい国の方が、心が温かく生き生きして、助け合いながら生きていると言うことが印象的だった。
39. テニスで青年海外協力隊をしてみたいと思った。
40. 世界のプロテニスプレーヤーから国際協力の道に尽力し、真剣に取り組んでいることに感動しました。
41. 国際協力をしようと思うので、私にできることをもっと探して、少しでも多くしてみたいと思いました。
42. 2時間はとても短かったです。もっとお話を聞きたかったです。今後もしこういったイベントや情報を発信していただきたいです。アンテナを張り巡らしていきます。
43. 家族との話し合いが大切なことがわかりました。
44. それぞれのジャンルで活躍している人たちの話を伺うことができ、感銘深かった。伊達さんは人間味があつてすばらしかった。

45. 伊達さんのお話を聞き、お姿をお近くで拝見し、クマーラさん、斎藤さん、荻原さんの具体的な活動、お話、お考えを伺い、自分の力を発揮できる場所を探しにきたはずが、それ以上の生きるパワーを様々な方面からいただいた実感が今、体の中から感じます。
46. 伊達公子さんにおめにかかれてうれしかった。とても考えがしっかりしていて、うらやましく思いました。
47. 先日 JICA の会社説明会に参加させていただきました。現在どう、国際協力に関わっていかうかと考え中です。
48. 自分で何ができるか、考えることから始めたいと思った。
49. 何ができるのか、できることがあるのかというポイントのお話がまた聞ければと思いました。
50. 言葉が通じなくても、テニス（スポーツ）をやることによって通じるものがあるんだなあと思いました。
51. もう少し、外の国々の状況が知れたらと思います。
52. アンゴラへぜひ行ってください。商社の駐在員として2年間暮らしてみて、子供達の目の輝き、すばらしさなどを感じました。陽気ですよ。
53. 毎日、仕事に追われ、達成感なんて忘れていましたが、きて良かったです。
54. 在日ペルー人の子供達にスペイン語を教えるボランティアをしていますが、子供達に教えようという意識が強く、なかなか彼らを楽しませることができませんでした。伊達さんのお話を聞いて、子供たちの力を伸ばすには、楽しませなくてはいけないというのを伺い、子供達が楽しんで勉強できる授業を考えていきたいと思いました。
55. 現在、ボランティアをしていますが、国内の困難のみならず、海外への物資の協力など技術的な援助も必要であると感じています。
56. 現在の仕事をしながら、国際協力に参加できる方法はありませんか。
57. 伊達さんからお話を聞いて良かった。まだ、15歳なので、青年海外協力隊として世界にいけません、身近なものから取り組んで行きたい。
58. 分かりやすいお話で、壁のような物を感じていた国際協力が身近に感じられました。現実には、すぐには、何かできるとは思えないけれど、また、こういったパネルディスカッションに参加したいと思いました。
59. スポーツを通じて、夢を持つすばらしさを教えることは、すごいと思いました。日本は、今、物に満たされ大切なことや生命の大切さなど、忘れていることに気づくことができました。

[添付資料]

- 1 ちらし
- 2 新聞広告・新聞イベント告知欄掲載記事
- 3 当日配布資料・アンケート用紙

国際協力ははじめの一步

伊達公子さんと語るう

JICA オフィシャルサポーターとして活動中の伊達公子さんや各界の有識者によるパネルディスカッション。「だれにでもできる」国際協力について考えてみませんか。



3/9 (日)

13:30~15:30

名古屋・栄ガスビル

5階ガスホール

入場料：無料

(事前申込み要・先着 250 名)

主催：国際協力事業団 (JICA)

中部国際センター

後援：(財) 愛知県国際交流協会(予定)

(財) 名古屋国際センター(予定)

(特) 名古屋 NGO センター(予定)



町永 NHK アナウンサー

出演：伊達 公子氏(プロテニス選手、JICA オフィシャルサポーター)

アーナンダ・クマール氏(鈴鹿国際大学国際関係学科教授、名古屋 NGO センター理事)

斎藤 弘之氏(安城市歴史博物館学芸員、愛知県青年海外協力隊 OB 会会長)

荻原 久義 (JICA 中部国際センター所長)

コーディネーター：町永 俊雄氏(NHK 名古屋放送局アナウンサー)

★伊達公子さん PROFILE

1970年京都市生まれ。小学校1年の時からテニスを始め、兵庫県園田学園女子高等学校3年時に全国高校総合体育大会でシングル、ダブルス、団体で3冠。卒業と同時にプロに。96年にはウィンブルドンでもベスト4入りした。同年、ヒンギス戦を最後に引退。98年から子どもを対象にした「伊達公子とテニスであそぼ カモン！キッズテニス」を全国で開催。

★TOPICS 伊達公子さん、Bangladeshを訪問

JICA オフィシャルサポーターとして活動中のテニスプレーヤー、伊達公子さんが、2月23日から28日までBangladeshを訪問します。現地では、小学生を対象に「キッズ・テニス」(テニス教室)を開催するほか、JICAが現地でNGOと連携して実施している保健医療プロジェクトや青年海外協力隊の活動を視察する予定になっています。伊達さんは2001年10月にベトナムで「キッズ・テニス」を開催。2002年8月には、第1号の「JICAオフィシャルサポーター」となり、国際協力やJICAの開発途上国への協力について市民に伝える活動を行っています。

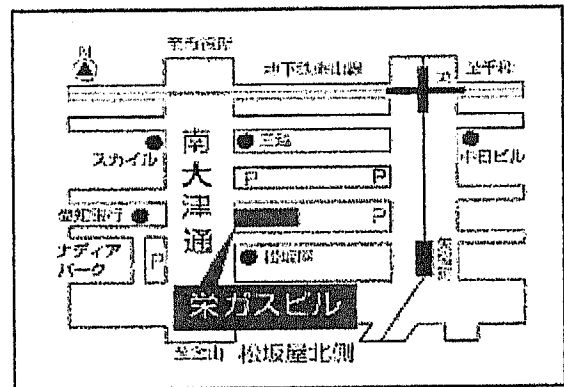
《会場へのアクセス》

栄ガスビル

(名古屋市中区栄3-15-33)

地下鉄「栄駅」サカエチカ6番出口より徒歩3分

地下鉄「矢場町駅」6番出口より徒歩2分



※郵送・FAX・e-mailにてお申し込み下さい。

国際協力ははじめの一步 ~伊達公子さんと語ろう~

参加申込書

【申込締切り：2月28日(金)必着】

氏名(ふりがな)	住所	
	(〒 -)	
TEL/FAX 番号	e-mail アドレス	所属先(学校名等)

JICA 受付印 ()

※郵送・FAXで申し込まれた方には、受付印を押した後、返送いたします。当日、受付印のある参加申込書をご持参ください。

※e-mailの方には、整理番号をお伝えします。当日受付にて、整理番号と氏名をお申し出下さい。

※先着順に受付、定員になり次第、申込みを終了させていただきますので、あしからずご了承下さい。

申込み・問い合わせ先:

国際協力事業団(JICA) 中部国際センター

〒465-0094 名古屋市名東区亀の井2-73

TEL:052-702-1391 FAX:052-702-1390 e-mail:jicacbi@jica.go.jp

伊達公子さんと「国際協力」を語りませんか?

「国際協力」と聞いて何を思われますか?自分には関係ない、遠い世界のことと思いませんか?実は、身の回りのたくさんのものが「開発途上国」からきています。「開発途上国」を知っていますか?水くみや薪木集めで多くの時間をとられてしまう女性のこと、椅子も机も教科書もない学校のこと、病気で亡くなってしまうたくさんの子供の事。そして、明るく家族の絆を大切にしている人々のこと。海外で自分の技術や知識を活かすための方法もあります。JICAはそのためにいろいろな工夫や活動を行っています。伊達公子さんは開発途上国でデニースを通じて活動を行っています。有識者とのパネルディスカッションを通じ、あなたも「私にできること」を発見してみませんか。

3月9日(日)
入場無料
13:30~15:30

●名古屋・栄ガスビル
5階ガスホール
(名古屋市中区栄3-15-33)
地下鉄「栄駅」サカエ1号出口より徒歩3分
地下鉄「栄駅」サカエ1号出口より徒歩2分



◆事前申込要:申込方法①) 氏名(フリガナ)、②) 住所、③) 電話・FAX番号、④) 電子メールアドレス、⑤) 職業を明記の上、FAXもしくは電子メールにて3月8日までにお申し込み下さい。折り返し先着順に整理番号をお伝えします。

■主催:国際協力事業団中部国際センター 曹後援: (財)愛知県国際交流協会、(財)名古屋国際センター、(特)名古屋NGOセンター

問い合わせ 申し込み先 JICA中部国際センター TEL: 052-702-1391 FAX: 052-702-1390 E-mail: jicacbt@jica.go.jp



2003. 2. 21

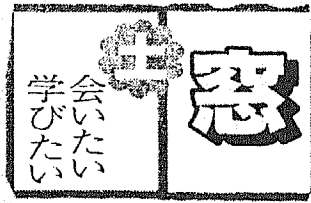
(地 方)

名古屋でパネルディスカッション「国際協力はじめの一步」伊達公子さんと語る

名古屋でパネルディスカッション「国際協力はじめの一步」伊達公子さんと語る。3月9日午後1時半〜3時半、中区栄の名古屋・栄ガスビル5階ガスホール。出演は、JICAオフィシャルスポンサーとして活躍している元プロテニス選手の伊達さん、アーナンダ・クマールさん(鈴鹿国際大学国際関係学教授、名古屋NGOセンター理事)、斎藤弘之さん(安城市歴史博物館学芸員、愛知県青年海外協力隊OB会会長)、荻原久義さん(JICA中部国際センター所長)。コーディネーターは町永俊雄NHKアナウンサー。定員250人(先着順)。入場無料。申し込みは28日までに、はがき、ファクス052(702)1390、電子メールjicacbi@jica.go.jpで、〒住所、氏名(ふりがな)、所属先(学校名など)、電話・ファクス番号、メールアドレスを書いて、〒465-0094名古屋市長区龜の井2の73、国際協力事業団中部国際センター ☎052(702)1391。

2003. 2. 22

(地 方)



お楽しみ情報コーナー

情報は〒5008076 岐阜市町一五、中日新聞岐阜支社窓係へ。ファクスは0558(265)4553。

オムニバス

◇あおぞら共同保育所主催講演「これからの子育ての力を抜いて子育てしましょう」

◇文化講座「歴史からみた美濃と飛騨の「匠」」

◇世界文化村き文化講演会 3月6日後1・30

◇ふれあい会館03フリーマーケット出店者 3月8

◇国際協力イベント「国際協力はじめの歩」

◇シンガー・ソングライターたかいたすおイベント

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

◇あおぞら共同保育所主催講演「これからの子育ての力を抜いて子育てしましょう」

◇文化講座「歴史からみた美濃と飛騨の「匠」」

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

学びたい

窓

会いたい

中日新聞 名古屋
CHUNICHI SHIMBUN Nagoya

2000. 2. 23

(地 方)

◇国際協力はしめの一歩
「伊達公子さんと語ろう」
3月9日後1・30・3・
30、中区栄3、栄ガスビル
5階ガスホール。誰にでも
できる国際協力についてパ
ネルディスカッション。出
演は、伊達さんほか、アイ
ランダ・クマール 鈴鹿国際
大学国際関係学科教授、齋
藤弘之 安城市歴史博物館学
芸員、荻原久義 JICA 中
部国際センター所長。無
料。先着50人。申し込みは
ファクスかEメールで、J
ICA 中部国際センター
ファクス(702) 1390、
Eメール jicachi@jica.or
g.jp へ。締め切りは3
月3日(必着)。◎同セン
ター電(702) 1391

2003. 2. 24

(地 方)

<p>9日に国際協力で伊達公子さんと語る会 JICA中部国際センター 国際協力事業団（JICA）中部国際センターは三月九日午後一時半から、名古屋市中区の名古屋・栄カスビル五階カスホールで「国際協力はじめの一步」伊達公子さんと語る会を開催する。同イベントはパネルディスカッション形式で国際協力について考えるもので、JICAオフィシャルサポーター・プロテニス選手の伊達さんをは</p>	<p>じめ、鈴鹿国際大学国際関係学科教授・名古屋NGOセンター理事のアーナンダ・クマール氏、安城市歴史博物館学芸員・愛知県青年海外協力隊OB会会長の斎藤弘之氏、JICA中部国際センター所長の萩原久義氏をパネリスト、町永俊雄NHK名古屋放送局アナウンサーをコーディネーターに行う。入場は無料だが事前申し込みの先着二百五十人まで。 問い合わせは同センター（電話052・702・1391）まで。</p>
--	--

国際協力はじめの一步



伊達公子さんと語ろう

日 時 : 平成15年3月9日(日) 13:30~15:30

場 所 : 栄ガスビル 5階ガスホール
(名古屋市中区栄3-15-33)

主 催 : JICA 中部国際センター

後 援 : (財)愛知県国際交流協会
(財)名古屋国際センター
(特)名古屋NGOセンター

【 スケジュール 】

13:30 開会

13:35 ビデオ「テニスは国境を越えて」上映

14:05 パネルディスカッション

15:30 閉会

【 パネリストのご紹介 】

1) 伊達 公子氏 (プロテニスプレーヤー・JICA オフィシャルサポーター)

海外に行くことに、悩んだり、不安を抱いたりすると思いますが、実際に行動に移せるということは素晴らしいことです。私も海外生活の中で苦労や悩みがありましたが、それが今は大きな財産となっています。日本でごく当たり前を感じていることが、他の国では違う。こんなことを感じるとは思わなかったということにたくさん出会えると思います。

ボランティアというのは、人のためというより、自分ができることをすることが結果として、人のためにつながっていくということです。何も大きなことから始めようというのではなく、身近なところからやっていくのがいいのではないのでしょうか。

私は、子ども達が夢を実現できるんだという勇気を持ってもらえるような協力がしたい。また、いろんな形で国際協力をしようという気持ちをより多くの人たちに持ってもらえるように情報を発信していきたいと考えています。

2) アーナンダ クマーラ氏 (鈴鹿国際大学教授・名古屋 NGO センター理事)

日本の友人と観光目的でスリランカを訪問し、現地の若者が日本人を見るとボールペンやノートをねだり、ヨーロッパ人を見るとお菓子などをねだる姿を見て、どこか間違っているのではないかと考えました。足りない物があれば、誰に対しても同じ物をねだるはずでしょう。私はこれをきっかけに、「タランガ・フレンドシップ・グループ (TFG)」という NGO 団体を設立し、国際協力活動に参加するようになりました。

今は、約100村の低開発村を対象に活動を行っています。小さな NGO 団体もその活動の実施方法を工夫すれば大きなインパクトを与えられるようになります。国際協力活動の効果は、双方にあるといわれるように、現地の人々のみならず、そこを訪れた若者を中心とした日本の参加者が、人々との交流を通じて大きな刺激を受け、自らについて、より真剣に考えるようになっていきます。このように、現地社会の活性化とともに、日本社会の活性化をも期待でき、一石二鳥ならず、一石三鳥といえるのではないのでしょうか。

3) 斎藤 弘之氏 (安城市歴史博物館学芸員・JOCV愛知県 OB 会長)

私の青年海外協力隊での活動、そして現在の仕事も、国際協力の中心的課題である衣食住や医療とは直接関係のない、地域の文化・歴史に関することでした。「おなかがいっぱいにならない＝生活の維持に関係のない」こうした分野は、なぜ必要なのでしょう。

私は、スポーツも含めた広い意味の文化は、決してぜいたくではなく、人々に生きる勇気を与えるという意味で「文化的勇気」だと考えます。生物の中で高度な文化をもつのは

人間だけで、人はその文化（例えば宗教）のために、たった一つの命さえも投げ出す場合もあるのです。人間は、文化なしには生きられない生物といえるのかもしれませんが。また、歴史についていうなら、「私たちはこれからどの方向に進んでいくのか（未来）」を定めるために、まず「私たちはどこからやってきて、どのように現在の生活を営むに到ったのか（過去）」をじっくり考えなくてはならないでしょう。

身近にあって、普段はその存在にさえ気づかない文化。これは私たちにだけでなく、世界中の全ての人々にとっても、おなかがいっぱいになるのと同じくらい大切なのではないのでしょうか。

4) 荻原 久義 (JICA 中部国際センター所長)

スポーツ、文化、教育そこに共通するもの、それは「人」です。「好きだから」「興味があるから」から行動が始まりますが、行動して「感じること」はもっと大切です。感動している「自分自身に気づく」ことは、更に大切です。

かつてないほど情報化が進み、世界の「貧困、環境、紛争」といった問題が毎日私たちに知らされます。そこで問われるのは、「こうした問題の中に、自分がいること」を感じること。そして「今、自分にできることは何か」を問い、「はじめの一步を歩み出すこと」ではないのでしょうか。「紛争と学校へ行けない人」を思い「学校に通える自分」を考えることも、今日の「伊達さんと語ろう」に参加することも「はじめの一步」だと思えます。

「そんなことしてどんな得になるの？」私は自信を持って答えます。「魅力的な人になれる」「元気になる」と。そんな人の集まる「名古屋」が私の願いです。そんな願いを持って、JICA中部国際センターは、高校生や大学生のエッセイコンテスト、小中高校教師の海外研修や開発教育、JOCVのサーモンキャンペーン、草の根技術協力などを行っています。

【 コーディネーターのご紹介 】

☆町永 俊雄氏 (NHK 名古屋放送局エグゼクティブ・アナウンサー)

名古屋放送局で朝の情報番組「ウィークエンド中部」の担当。これまで「おはようジャーナル」「NHK特集」「NHKスペシャル」「くらしのジャーナル」「教育トゥデイ」「ETV2001」「金曜アクセスライン」等の番組において、経済、医療、教育、家庭、健康、福祉といった幅広いテーマを扱う。

また、NHK文化センターで「話し方教室」の講師も勤める。著書に「ドキュメント・リゾート」、毎日新聞連載「私の読書日記」、対談集「レモンをひとしぼり」など。

◆中部国際センターが実施する開発教育支援事業◆

1. 中学生・高校生エッセイコンテスト
2. サーモンキャンペーン（講師派遣）
3. 小学校・中学校・高校教師海外研修
4. 開発教育実践講座・開発教育指導者研修
5. 高校生国際協力実体験プログラム
6. パネル・ビデオの貸し出し

* どうぞお気軽にお問い合わせ下さい。

人造り・国造り・心のふれあい



国際協力事業団（JICA）

中部国際センター

〒465-0094 名古屋市名東区亀の井2-73

TEL : 052-702-1391 FAX : 052-702-1397

E-mail : jicacbi@jica.go.jp

ホームページ : <http://www.jica.go.jp/branch/cbic/index.html>

国際協力はじめの一步～伊達公子さんと語ろう

《アンケート》

本日は「国際協力はじめの一步 伊達公子さんと語ろう」にご参加いただきありがとうございました。大変恐れ入りますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

Q 1. あなたの性別・年齢等についてお答え下さい。

- 性別 : 女性 男性
- 年齢 : 20歳未満 20歳代 30歳代 40歳代
50歳代 60歳代 70歳代以上
- 職業 : 会社員 自営業 公務員
学生 主婦 その他 ()

Q 2. 本日の「国際協力はじめの一步」をどこでお知りになりましたか？

- イベントちらし 新聞等（具体的には_____）
親戚・知人等 その他（_____）

Q 3. 「国際協力はじめの一步」に参加された動機・目的は何ですか。（複数回答可）

- 国際協力が興味があったから 伊達公子さんに会いたかったから
おもしろそうだったから その他（_____）

Q 4. 本日の「国際協力はじめの一步」について感想を教えてください。（複数回答可）

- おもしろかった つまらなかった 勉強になった
難しかった 分かりやすかった
その他（_____）

Q 5. 今後、国際協力に関し、

- 積極的に取り組みたい 機会があれば取り組みたい あまり取り組みたくない

Q 6. Q 5で「取り組みたい」とお答えいただいた方にうかがいます。具体的にどのようなことをしたいとお考えですか。

(_____)

Q 7. その他、ご意見・ご感想等をご自由にお書き下さい。

ご協力ありがとうございました。

13064



国際協力事業団 (J I C A)

中部国際センター (C B I C)

〒465-0094

名古屋市名東区亀の井2丁目73番地

TEL : 052-702-1391 FAX : 052-702-1397

E-mail : jicacbi@jica.go.jp